

4 三本槍岳に挑戦

執筆者： (1年)

【はじめに】

この度、私の体調不良により7月9日の山行が途中下山になってしまったことを謝罪させていただきます。この経験をこれからの活動に生かせるよう頑張っていきます。

日時 2022年7月9日(土) 三本槍岳

7月16日(土) //

場所 三本槍岳(那須町)

参加者

天気 くもり

【山紹介】

三本槍岳は標高1916, 9mの山です。この山は福島県西白河郡西郷村と那須塩原市の間にある山です。山頂の北西には爆裂火口底に水をたたえた、周囲約450mの鏡ヶ沼があり、クロオオサンショウオ、モリアオガエルが生息しています。山頂からは南に朝日岳が見えます。



↑ 山頂の様子

【活動内容】

学校集合 5 : 40 - 出発 5 : 50 == バス (70) == 北温泉集合 7 : 00 - 出発 7 : 20 == サブ行動 (85) == スキー場分岐 8 : 45 == サブ行動 (80) == 赤面山分岐 10 : 05 == サブ行動 (20) == 北温泉分岐 10 : 25 == サブ行動 (30) == 三本槍岳到着 10 : 55 - (昼食) - 出発 11 : 50 == サブ行動 (20) == 北温泉分岐 12 : 10 == サブ行動 (15) == 赤面山分岐 12 : 25 == サブ行動 (50) == スキー場分岐 12 : 15 == サブ行動 (60) == 北温泉到着 14 : 15 (入浴) (60) == バス (70) == 学校到着 16 : 25 - 解散 16 : 30
行動時間 : 6時間55分

【山岳部朝のルーティーン】

私たち山岳部は朝の早い時間から活動を開始します。学校に集合をした後、バスを使って目的地に向かいます。バス内では寝ている人や外の景色を楽しむ人もいます。そのようなことをしている内に目的地へと到着しました。私たちはSSHの活動のため山を登る前に体重を量ります。私たちは男の子として扱われているため自分の体重に恥ずかしがることはありません。

体重測定の様子
荷物(計測機器)の
分担も行っている



【進め！山岳部！】

山の中では一列になり歩き続けます。その光景はまるで長い蛇のようです。長蛇の列とはこのことなのかもしれないですね。しかし、蛇のようだと言われても時には間が空いてしまう時もあります。私たち人間は一人一人体力が違いますから歩くペースに差が出るのです。そんな時には休憩をとります。私たちの体力は無限ではありませんからね。水分補給をしたら読図をします。読図というのは地図を見て、現在地を把握することです。

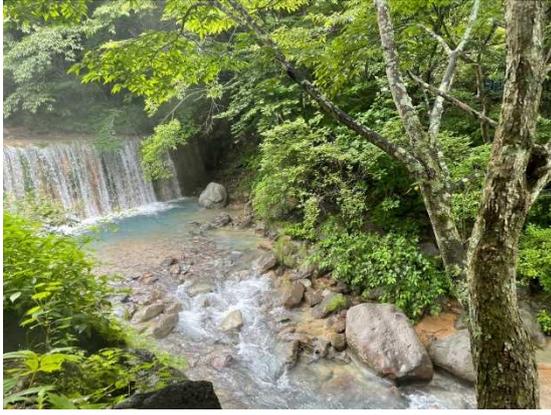


一列で歩く様子

【自然の力】

ここまでの写真を見てわかると思いますが、三本槍岳は豊かな自然に囲まれています。上の写真では、奥まで私たちがいる場所のように草木が生い茂っています。もちろん、緑豊かな土地には野生生物が生息しています。下の写真では蛇が写っているのがわかります。私たち山岳部は、山で活動を行っているためこのような生き物に遭遇することがあります。今まで見てきた中で最も大きい生き物は鹿でした。さて、そんな生き物が多く生息する自然豊かな三本槍岳ですが、とても険しい道のりとなっていました。険しいポイントはなんと言ってもとても長い尾根でしょう。尾根というのは、簡単に言いますと、谷と谷の間にできた周りより高くなっている場所のことです。尾根は標高が段々と高くなっていっているのです。私たちの体力が減っていきます。





↑温泉近くなのか温かい場所だった

【誰かを頼る心】

山岳部のメンバーが尾根を歩いているとき、突然私の体に異常が起きました。腹痛です。そう、私があの時苦しめられた痛みは腹痛だったのです。私は突然のことに戸惑い、耐え忍べば何事もなく終われると思い我慢をしてしまいました。(今思えば前日の夕食が原因なのではと)それから何十分か私は苦痛に耐えながら山行を続けました。時には、立ち止まりたくても他のメンバーについていきました。しかし、人には限界というものがあります。ついに私の足が止まってしまっていたのです。私はそこで他のメンバーに異常を告げて、引き返すことになりました。引き返すとき私は驚愕しました。「ここからスタート地点に戻ることはできるのか」、「こんなポロポロの体でできるのか」と私は思いました。なぜ私は苦痛を我慢したのでしょうか？そう、他の頑張っているメンバーの足を止めることは私にはできないから、他のメンバーに迷惑をかけたくなかったのです。私はメンバーを信用できていなかったのです。「何かあったら誰かが助けてくれる」、「誰も嫌な顔をしない」と。実際私は引き返す時、私の荷物を分担して持ってもらっていました。みな私を助けてくれたのです。

【邂逅】

木々の間を抜ける道が終わる辺りで、先頭にいた高梨先生が止まりました。緊急時の対応のためにエスケープルートを選択しました。その時の私は、その先がどこまで続いていたのかわかりませんでしたからあまり乗り気ではありませんでした。その別の道歩いて少し経ったところ何やら建物が見えてきました。展望台です。この時の天気は晴れていなかったのであまり良い景色は見られませんでした。その後私たちは展望台を後にしました。展望台をあとにして、砂利道を歩いていると犬と一緒に歩いている人を見かけました。最初は何故犬と一緒に歩いているのか理解できませんでした。(雨が降っていたので)しかし、その先の光景を目にすれば犬と一緒に歩いてもおかしくないと思ってしまうでしょう。なぜならドッグランに似た設備があったからです。その場所はたくさんの犬と人で賑わっていました。雨にもかかわらず、ドッグランの近くには小さい子供が遊べるような遊具や山の中のカフェがありました。私たちはそこで昼食を取った後にロープワークをしました。ロープワークというのは山岳用のひも(ザイルといいます)を使って、安全に川などを渡れるようにするための練習です。



【帰路に就く】

ロープワークをした後、下ること数十分ついにスタート地点の北温泉に戻ることができました。私たちはそこで集合写真を撮り、温泉に入りました。北温泉はテルマエロマエという映画の撮影地にも使われた温泉地です。私たちが入った天狗の湯の他にも色々な湯があるので行ってみたいのが多いと思います。最後になりますが、ここまで読んでくださり誠にありがとうございます。これからも山岳部は歩み続けていくのでよろしくお祈りします。16日の班は問題なく登頂することができました。





7月16日の班 集合写真



7月9日の班 集合写真

【感想】

この日、最初は晴れていましたが、段々天気が悪くなっていき、最終的に雨が降ってきました。最高気温は8時03分の24.4℃で最低気温は茶臼岳山頂の15℃となっていて、差は9.4℃とかなり高い差になっていました。天気のせいか、景色のよい写真を撮ることができませんでした。三本槍岳には長い尾根があり、木々の間を何十分と歩きました。私が腹痛を起こした時には雨が降っていました。引き返した後に、温泉に入り、活動を終了しました。

あの時私を助けてくださった皆様に感謝しています。

【English】

We went to Sanbonyari on July 9. The mountain is very wide and very fall. You can feel the strength of the trees in the abundant nature!

We started early in the morning going up the mountain. We did this to finish before ia go a too dark. We operated with a focus on our own personal safety.

The path on Mt. Sanbonyari was surrounded by trees, making it a very hot and humid space. When I was almost halfway up the mountain, something happened to me. The anomaly was abdominal pain. But I did not know the cause. Because I have no idea what I am talking about. I then informed the others of the situation, and we made our withdrawal. I felt so bad. I caused them so much trouble. Still, they helped me out. It was from the the heat.

What this experience has taught me is that the most important thing you can do it to tell others if you see anything out the ordinary. I do not have to worry about what others say about me. Because my friends are nice people who can help people in need.